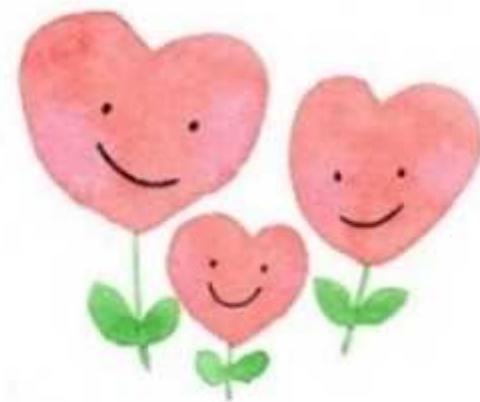


計画番号	42
事業番号	事業実績欄に記入
担当課	健康増進課
記入者	気田 多香子
直通	51-6797

事業検証シート

基本目標	子育て・教育	地域全体で子育て・子育てをしっかりと支えるまち		
施策名	子育て支援の充実			
基本事業名	安心して子どもを産み育てられる環境づくり			
事業名	妊娠期からの切れ目のない子育て支援	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続		
目的	妊娠期から子育て期までの切れ目のない相談・支援体制を整え、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを推進する。			
手段	助産師などを活用した訪問・相談事業の実施や子育て情報配信システムの導入などにより、子育て支援体制を強化する。			
事業開始年度	平成29	年度	事業終了年度	年度
成果指標	現状値の推移			目標値
	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	
4か月児健診時に出産・育児について満足している割合		85.7%	※	95%
事業費 (単位：千円)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	
	29,062	40,242	※	
備考	妊婦家庭訪問、乳児家庭訪問については「子ども・子育て支援交付金」、産後ケア事業、ほっとママサロンについては「母子保健衛生費国庫補助金」を活用。入院を要する乳児をもつ母親へのアクセス支援事業については、「青森県ハイリスク妊産婦アクセス支援事業費補助金」を活用。			
事業実績	実施内容			
	事業番号(03-02-01-120100)、(04-01-06-010100、010400、011700、012500、012800) 妊娠期から同一担当助産師等による継続的支援を行うとともに、仲間づくりを目的とした相談事業を実施し、妊産婦が地域で孤立することのないよう支援体制を整えた。産後の子育てにかかる費用の負担軽減を目的に実施する子育て応援ギフト券給付事業を開始した。			
	事業実績(成果指標以外)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)
①妊婦家庭訪問(実施率) ②養育支援訪問事業(利用者数、延利用者数) ③産後ケア事業(利用者数、延利用者数) ④乳児家庭全戸訪問(実施率) ⑤ほっとママサロン(実施回数、延利用者数) ⑥入院を要する乳児をもつ母親へのアクセス支援事業(申請数) ⑦子育て情報配信システム登録数(登録者数、アクセス数) ⑧とわだde子育て応援ギフト券給付事業(給付者数、給付数、利用数)		①95.2% ②71世帯、延101世帯 ③29人、延44人 ④97.2% ⑤27回 162人 ⑥11人 ⑦936人、181,040件 ⑧265人 13,250枚、10,037枚	※	※
事業評価	4か月健診時における出産・育児について満足している割合の目標値は達成できなかったが、産後ケア事業では退院直後の産婦一人ひとりに寄り添い支援することで、産後うつ予防や悪化防止につなげることができた。 また、安心して外出できる場や相談手を求めるニーズに対して、個別に対応しており、妊産婦の孤立や孤独を軽減することができた。			
達成状況	<input type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> おおむね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 達成できなかった <input type="checkbox"/> その他			
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> さらに重点化を図る <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 内容を改善して継続 <input type="checkbox"/> 事業の統廃合を図る <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 完了			
上記理由	支援サービスの利用は増加傾向にあるものの、様々な面で不安を抱える妊産婦が多数いることから、妊娠期からの切れ目のない支援体制を整備する必要があるため。			
今後の改善内容	①ほっとママサロンを含む子育て安心サポート事業を見直し、父親等の家族を対象に内容の充実を図る。 ②産後ケア事業の対象時期や回数を見直し、産後の支援の充実を図る。 ③子育てに関する情報を容易に収集・管理ができるよう、子育て情報配信システムの見直しを図る。			



妊娠期からの切れ目のない子育て支援

令和4年9月30日（金）

十和田市健康福祉部健康増進課
親子支援係長 気田 多香子

事業概要

- ①妊産婦が困っている事など生活状況を早期にキャッチし、支援につながるよう信頼関係を築くため母子健康手帳を交付した同一の妊産婦指導員が継続的に関わった。
- ②育児不安や孤立感及び経済的な負担の軽減を図るため各種事業を実施した。

目 的 : 妊娠期から子育て期までの切れ目のない相談・支援体制を整え、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを推進する。

事業費 : 29,062千円（令和3年度決算額）

- 目指すところ
- ①妊産婦が自分からSOSを出し不安や悩みについて相談先へ相談することができる。
 - ②助産師や保健師は、産前産後の妊産婦の体調面の把握等、関わる中でメンタルヘルス不調等に早期に気づき必要な支援につなぐ。
 - ③育児環境が整うことで妊産婦は自分なりの子育てをすることができる。



妊産婦指導員

母子健康手帳交付した同一の妊産婦指導員が生後4か月まで継続的にサポート

妊娠届出

妊娠期

出生届出

産後

育児期

母子健康手帳交付
(安心子育てサポートプラン)

支援プラン作成 (支援方針)

全妊婦家庭訪問

乳児家庭全戸訪問

養育支援訪問



産後ケア (助産師による専門的ケア)

ほっとマミーサロン (妊産婦の個別相談と交流)

「とわだDE子育て応援ナビ」子育て情報の提供

入院中の乳児をもつ母親へ交通費等の助成

とわだde子育て応援ギフト券給付事業



妊娠期からの支援の強化、一貫した支援と継続関与

事業名	妊娠期	新生児期	乳児期	備考
全妊婦家庭訪問	○			妊娠32週頃 妊娠期うつスクリーニング
乳児家庭全戸訪問		○ →		生後4カ月までに訪問 産後うつスクリーニング
養育支援訪問	○ →			継続的な訪問支援
産後ケア事業	事前申請	○ →		退院直後から産後1年 に至るまで
ほっとマミーサロン	○ →			妊産婦の家族、パートナーの参加可
とわだDE子育て応援ナビ	○ →			妊娠届出時から登録を促す
入院中の乳児をもつ母親へ交通費等の助成		○ →		助成上限額 10万円
とわだde子育て応援ギフト券給付事業		○ →		給付後、6か月以内の使用期限

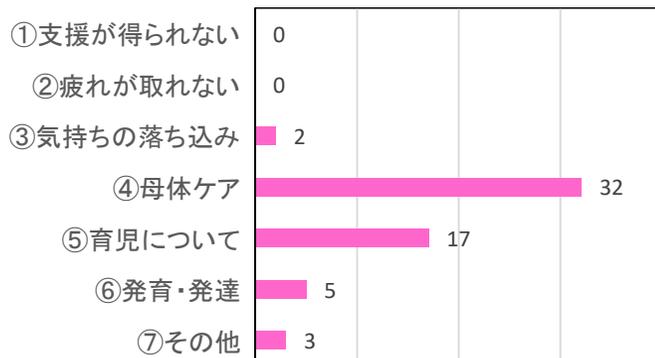
①産後ケア事業

- 委託先
- ・訪問型：市内2カ所の開業助産院
 - ・デイサービス型：三沢市1カ所の開業助産院

(人)

年度	利用者数		利用内訳				(事前)申請のみ
			訪問型 (500円)		デイサービス型 (2000円)		
	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数
令和2	19	23	17	17	2	6	15
3	29	44	28	39	1	5	31

利用目的【訪問型】

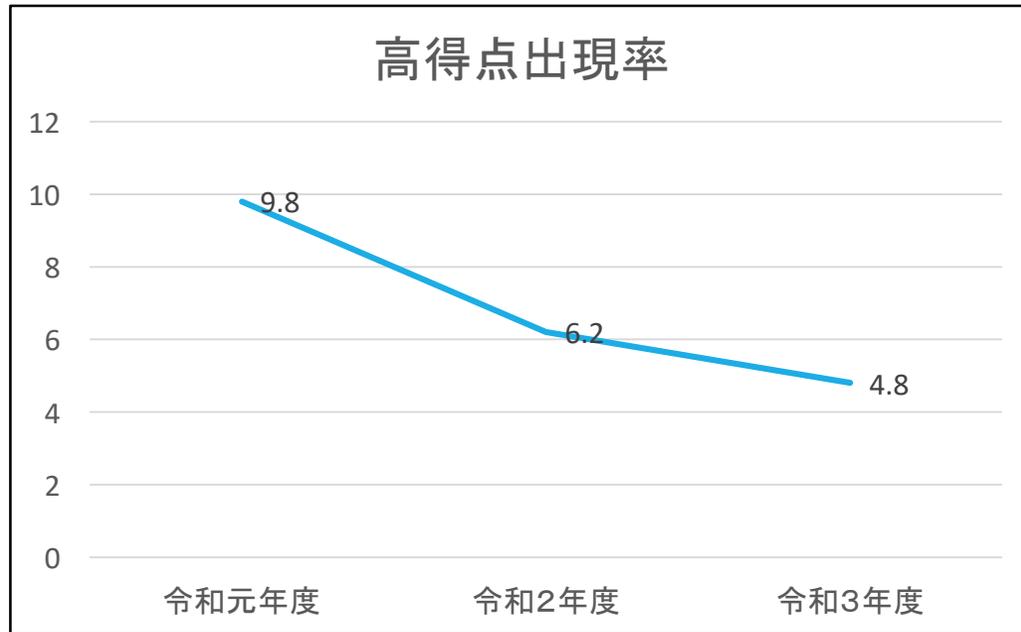


ケア内容【訪問型】



②全妊婦家庭訪問、乳児家庭全戸訪問での 周産期うつスクリーニング

対象 妊婦： 全妊婦家庭訪問時に実施（令和2年度から実施）
産婦： 乳児家庭全戸訪問時に実施



（結果）

産前にメンタルヘルス不調に気づくことにより、産後の早期支援につなげることができた。

（男性の周産期うつスクリーニング）

令和3年度からは、市立中央病院メンタルヘルス科の徳満先生が行う男性の周産期うつスクリーニングに関する共同研究機関として協力し、父親やパートナーにも周産期うつスクリーニングを実施。

③ほっとマミーサロン

実施ポイント

- ・妊産婦に限らず、パートナーや家族が参加しやすいプログラム
- ・人との交流や外出を控えたいという妊産婦には個別に対応
- ・参加者同士の交流が図られるよう、講義だけでなく、交流場面を設定



3年度	回数	妊婦		産婦		家族等		乳児	
		実人数(人)	延人数(人)	実人数(人)	延人数(人)	実人数(人)	延人数(人)	実人数(人)	延人数(人)
交流会	22	6	10	27	69	9	10	27	69
個別	5	3	4	4	5	0	0	4	5

④とわだde子育て応援ギフト券給付事業

概要：出産や子育てにかかる支出が増える期間の経済的な負担の軽減を図るため、乳児1人につき5万円分の育児用品を購入できるギフト券を乳児家庭全戸訪問時に給付

事業年度：令和3年度～令和5年度（3か年）

令和3年度給付者数 265人（利用率 75.8%）



購入商品は、オムツ、粉ミルク、衣料品、おしりふきで9割を占めています。

令和元年度、2年度の成果指標及び事業実績

成果指標	現状値の推移			目標値
	令和元年度（2019）	令和2年度（2020）	令和3年度（2021）	令和5年度（2023）
4か月児健診時に出産・育児について満足している割合	87.1%	92.0%	85.7%	95%

事業実績	令和元年度	令和2年度	令和3年度
①妊婦家庭訪問（実施率）	95.2%	95.6%	95.2%
②養育支援訪問事業（利用世帯数、延利用世帯数）	11世帯延39世帯	100世帯延159世帯	71世帯、延101世帯
③産後ケア事業（利用者数、延利用者数）	-	19人、延23人	29人、延44人
④乳児家庭全戸訪問（実施率）	98.1%	99.7%	97.2%
⑤ほっとマミーサロン（実施回数、延利用者数）	41回 292人	30回 207人	27回 162人
⑥入院を要する乳児をもつ母親へのアクセス支援事業（申請数）	8人	11人	11人
⑦子育て情報配信システム登録数（登録者数、アクセス数）	577人、114,265件	773人、159,177件	936人、181,040件
⑧とわだde子育て応援ギフト券給付事業（給付者数、給付数、利用数）	-	-	265人 13,250枚、10,037枚

	妊娠期からの切れ目のない子育て支援	回答
質問事項	①成果指標及び事業実績について、令和元年度、2年度の実績をお示ください。	※別表参照
	②個々の実績をどのように分析・検証し、「さらに重点化を図る」に至ったのでしょうか。	<p>個々の事業についての分析・検証については、参加者からのアンケートや妊産婦指導員の支援記録、実績報告書から総合的に評価しました。</p> <p>結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特定妊婦(若年、未入籍、経済的問題等を抱えた妊婦)の割合 11.1% ○ハイリスク妊婦(妊娠既往リスク、身近な育児協力者が不在)の割合 67.4% ○産婦人科医院等から連絡票を活用した情報提供や支援依頼件数 57件 ○周産期うつスクリーニングの高得点者の割合 4.8%(R元→9.8%、R2→6.2%) ○アンケート結果や妊産婦支援に関わっている助産師からの参考意見 <ul style="list-style-type: none"> ・知りたい情報はスマートフォンから入手しているが、妊産婦同士の交流や体験を通じて学びたい。 ・沢山ある情報の中から正しい情報や自分に合った情報を選択し、自身を持って子育てできるよう支援する必要がある。 ・沐浴など練習が必要なお世話に限らず、抱っこやミルクの調乳、哺乳瓶の洗い方などにも不安を感じている妊産婦がいる。 ・子どもとの遊び方に自信が無い親が多く、妊娠中から保育士との関わりを持つことで接し方の参考になっている。 ・産前・産後休暇中の収入減の時期に育児用品にかかる出費で家計が心配。 <p>以上の事から、妊産婦を取り巻く環境に応じた支援を関係機関との連携を図り実施していく必要があることから、さらに重点化を図ることとしました。</p>
	③妊婦家庭訪問、乳児家庭全戸訪問について、実施率はどのように算出していますか。また、いずれも高率と思われそうですが、一部実施できなかった理由は何でしょうか。	<p>◆妊婦家庭訪問の対象は概ね産前休暇に入る妊娠32週頃としています。当該年度に妊娠32週以降となる妊婦の数を分母に、訪問や来所面談、電話支援した妊婦の数を分子に算出しています。訪問実施できなかった主な理由は、出産前まで仕事を続けるため時間が取れない、新型コロナウイルス感染のリスクを考え室内への家族以外の訪問を断っているためです。</p> <p>◆乳児家庭全戸訪問の実施率は国の実施要綱に沿って、生後4カ月までの乳児のいる全ての家庭のうち長期入院や施設入所、年度末の出生分を引いた数を分母に、訪問した家庭数を分子としています。実施できない主な理由は、新型コロナウイルス感染のリスクを考え室内への家族以外の訪問を断っていることや市外への転出などです。</p>
	④産後ケア事業について、事業の対象となる全体見込み数はいくつでしょうか。	令和3年度は令和2年度の実績を参考に利用回数を見込み、訪問型は年間180回、デイサービス型は25回の利用を見込みました。
	⑤産後ケア事業について、有料ですが、利用を思いとどまる原因になっていないでしょうか。また、利用料に子育て応援ギフト券を充てることはできるのでしょうか。	産後ケア事業の利用を思いとどまることの無いよう、市民税非課税世帯や生活保護世帯は無料とし経済的負担にならないよう配慮しております。また、子育て応援ギフト券は生まれた子どもにかかる粉ミルクや紙おむつ等の商品購入に利用していただくことで経済的な負担軽減を図ることを目的としており、産後ケア事業の利用料には充てることは想定しておりません。

	<p>⑥4カ月児健診時の出産・育児についての満足割合について、どのようにして調べていますか。また、満足していない理由は何が挙げられますか。(達成状況について、達成できなかった理由は何ですか。)</p>	<p>4カ月児健診の問診票に「出産・育児について満足していますか」という質問項目を設け、「はい・いいえ・どちらともいえない」の3つから選択してもらいます。この質問項目は国の健やか親子21計画の指標であることから、当市においても、健康十和田21計画の指標としております。満足していない理由については「出産時に夫が立会いできなかった」「育児休暇が短い」との回答がありました。また、育児に関する質問には「児が泣き止まない時が負担」「家族の協力が少ない、得られない」「仕事と家事、育児の両立が難しい」「体調不良時の育児が大変」等の回答がありました。</p>
質問事項	<p>⑦ホットミーサロンについて、内容見直しは具体的にどのようにする予定ですか。</p>	<p>①パパママ教室を平日の夜間開催のほか新たに日曜日にも年7回開催し、パートナーと2人で参加しやすい体制を整えました。また、産後コースを新設し、パパ同士の交流会や赤ちゃんとの遊び方等、子育てパパを応援する内容で実施しています。 ②ほっとミーサロンのプログラムを前年度好評の「骨盤ケア」「おっぱいケア」「ベビーマッサージ」「ベビー計測・離乳食」の4つとし、内容を充実させ実施しています。 事業に参加できない妊産婦には、父性や男性の周産期うつに関する情報を提供し、その内容を夫婦で共有することで子育ての心構えや準備を促しています。</p>
	<p>⑧産科、小児科数などは、県内の他の市町村と比較してどの程度ですか。</p>	<p>十和田市と人口規模が近い、むつ市は産婦人科3施設(うち2施設で分娩の取り扱いあり)、小児科5施設、五所川原市は産婦人科3施設、小児科12施設、上十三保健所管内の三沢市は産婦人科1施設、小児科5施設。十和田市、産婦人科4施設(うち2施設で分娩の取り扱いあり)、小児科8施設。※参考:青森県庁ホームページ病院、診療所名簿(R4.4.1現在)</p>
	<p>⑨市には、子ども医療費給付事業がありますが、これから働こうとする人、移住先を考えている人への周知はどのようになされていますでしょうか。</p>	<p>十和田市の移住情報発信ポータルサイト「日々コレ十和田ナリ」に、子ども医療費給付事業など子育てに関する情報や、移住するために必要な情報を掲載し周知しております。</p>
	<p>⑩これから子供を生み育てようとする人が住みたいと思う十和田市にすることが必要と考えますが、企業誘致についてはどのようにお考えでしょうか。</p>	<p>企業誘致は、より多くの人々や消費を引き込み、将来にわたって足腰の強い地域経済基盤を確立するとともに、次世代を担う若者たちの雇用機会の拡大を図る取組であります。今後も引き続き、本市の豊かな自然や農畜産物などの地域資源を活かした誘致活動を展開するとともに、本市の特徴や魅力を発信し、企業の誘致に結び付けたいと考えております。</p>

●令和元年度、2年度の成果指標及び事業実績

成果指標	現状値の推移			目標値
	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和5年度 (2023)
4か月児健診時に出産・育児について満足している割合	87.1%	92.0%	85.7%	95%

事業実績	令和元年度	令和2年度	令和3年度
①妊婦家庭訪問（実施率）	95.2%	95.6%	95.2%
②養育支援訪問事業（利用世帯数、延利用世帯数）	11世帯延39世帯	100世帯延159世帯	71世帯、延101世帯
③産後ケア事業（利用者数、延利用者数）	-	19人、延23人	29人、延44人
④乳児家庭全戸訪問（実施率）	98.1%	99.7%	97.2%
⑤ほっとマミーサロン（実施回数、延利用者数）	41回 292人	30回 207人	27回 162人
⑥入院を要する乳児をもつ母親へのアクセス支援事業（申請数）	8人	11人	11人
⑦子育て情報配信システム登録数（登録者数、アクセス数）	577人、114,265件	773人、159,177件	936人、181,040件
⑧とわだde子育て応援ギフト券給付事業 （給付者数、給付数、利用数）	-	-	13,250枚、10,037 205人 枚